

■融雪遅延対策

休眠期防除などの春作業に支障がないように、園地の融雪に努めましょう。融雪剤を散布することで、雪解けを5～10日早める事ができます。

★融雪剤

商 品 名	てんろ石灰 (20kg/袋)	くん炭 (50ℓ/袋)
価 格 (税 込)	823円	880円
散布量/10a	40～60kg	100ℓ (10～15kg)

■さくらんぼ凍霜害対策

生育が早まると凍霜害の発生リスクが高まります！

令和5・6年度は3月28日以降から4月10日頃にかけて降霜がありました。防霜資材の準備や散水設備、防霜ファンの試運転は早めに行いましょう。

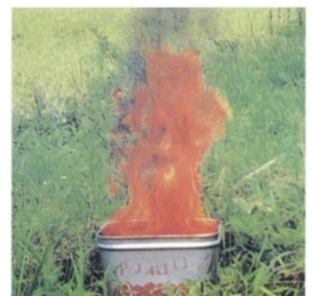
花芽が膨らみ始める発芽10日後頃からだんだんと霜に弱くなります。「やまがた紅王」や「紅秀峰」は、「佐藤錦」よりも生育の進みが早いため注意しましょう。結実確保に向けて凍霜害対策を行いましょう！

1. 燃焼法

燃焼資材を使って園地の気温低下を抑える方法です。気温が1℃を下回ったら点火します。気温が最も低くなる日の出直前に火力が低下しないようにしましょう。

★燃焼資材

商 品 名	防霜ロック	
価 格 (税 込)	燃焼缶20缶・ふた1枚	19,412円
	マット20個	4,918円
	火力調整ふた1枚	971円
使 用 目 安	10a当たり20缶設置 灯油4ℓで約3時間燃焼します。	



2. 散水氷結法

水が氷るときに発生する潜熱を継続発生させることで、樹体温を0℃以上に保つ方法です。スプリンクラーなどを使って樹上から散水します。散水は気温2℃程度から開始し、翌朝、氷が融けるまで散水を続けましょう。(途中で散水を止めると被害を助長します。)

3. 防霜ファン

ファンを使って上部の暖かい空気を地表に送り込むことで、地表付近の気温を上昇させる方法です。気温2℃以下で稼働します。-2℃以下になると、十分な効果が得られなくなるため、燃焼法を併用しましょう。

4. その他

葉面散布剤による霜・低温予防

★葉面散布剤

商 品 名	アイスバリア (1. 1kg/本)	霜ガード (10kg/袋)
価 格 (税 込)	2, 845円	5, 355円
希 釈 倍 数	100~333倍	50倍 開花期以降100倍



「果樹凍霜害対策マニュアル」
ご活用ください！

■休眠期防除の徹底

黒星病・胴枯病、またはカイガラムシ類・ハダニ類など越冬する病害虫は、生育期に発生が増えると抑えるのが困難になるため、休眠期防除で事前に密度を下げるのが重要です。

発芽期が平年より早まる場合がありますので、今後の気象状況をチェックして散布時期を逃さないよう防除徹底に努めましょう！

★発芽期

樹種 品種	さくらんぼ 佐藤錦	もも 川中島白桃	西洋なし ラ・フランス	りんご ふじ	ぶどう デラウェア
前年 R6	3/29	3/16	3/19	4/2	4/16
平年 過去10年の平均	3/26	3/19	3/23	3/30	4/23

※防除について詳しくは、「令和7年」Aてんどう病害虫防除暦」をご覧ください。

【果樹休眠期防除】

🍑 さくらんぼ

対象病害虫	薬剤名		倍数	収穫前使用日数 使用回数
カイガラムシ類	①	スプレーオイル	50倍	発芽前 —
カイガラムシ類幼虫	②	アプロードフロアブル	1,000倍	7日前まで 2回以内

🍑 もも

対象病害虫	薬剤名		倍数	収穫前使用日数 使用回数
カイガラムシ類	①	スプレーオイル	50倍	発芽前 —
灰星病・黒星病 せん孔細菌病・縮葉病	②	トレノックスフロアブル	500倍	7日前まで 5回以内
カイガラムシ類幼虫	③	アプロードフロアブル	1,000倍	14日前まで 3回以内

🍑 西洋なし

対象病害虫	薬剤名		倍数	収穫前使用日数 使用回数
カイガラムシ類	①	スプレーオイル	50倍	発芽前 —
うどんこ病 黒星病・胴枯病 腐らん病・輪紋病	②	トップジンM水和剤	1,000倍	前日まで 6回以内
カイガラムシ類幼虫	③	アプロードフロアブル	1,000倍	30日前まで 2回以内

りんご

対象病害虫		薬剤名	倍数	収穫前使用日数 使用回数
カイガラムシ類 ハダニ類	①	スプレーオイル	50倍	発芽前 —
腐らん病 (黒星病)	②	ベフラン液剤25	1,000倍	休眠期 6回以内
カイガラムシ類幼虫	③	アプロードフロアブル	1,000倍	30日前まで 2回以内

ぶどう (ジベ処理デラ・大粒種)

対象病害虫		薬剤名	倍数	収穫前使用日数 使用回数
晩腐病・黒とう病 つる割病	①	デランフロアブル	200倍	休眠期 1回

※詳しくは、「令和7年」Aてんどう病害虫防除暦をご覧ください。